

障害者・高齢者等とのスポーツ観戦の実態と課題

— 一緒に観戦した人に対するアンケート調査結果から —

上席主任研究員 水野 映子

目次

1. はじめに	12
2. スポーツ観戦に一緒に行った人の特性	12
3. 障害者・高齢者等とスポーツ観戦に行った理由	14
4. 障害者・高齢者等にとってのスポーツ観戦の効用	15
5. 障害者・高齢者等とのスポーツ観戦に関する問題とその改善希望	16
6. おわりに	19

要旨

- ①障害者や要介護者、その他の高齢者とスポーツ観戦に行った経験、観戦時に感じた不便・不満や良かったことなどについて尋ねたアンケート調査の結果から、彼らを含むより多くの人がスポーツ観戦を楽しめるようにするための課題を探る。
- ②障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦に行ったことがある人の割合は、それぞれ数%にとどまった。ただし、観戦に行ったことがある人は、観戦したことによって彼らや自分が楽しめたり、元気になったなどの効用がもたらされたりしたと答えている。
- ③障害者・要介護者・高齢者との観戦時に感じた不便・不満・不安としては、観戦場所までの移動や観戦場所での移動が難しかったこと、トイレや観戦席などの設備や情報提供が不十分だったこと、周囲の観客の目が気になったことなどがあげられている。
- ④障害者・要介護者・高齢者やその同行者等が観戦を楽しむためには、エレベーター等の上下移動のための設備、彼らの優先・専用のトイレ・観戦席・通路、適切な情報提供、スタッフの手助けなどがあると良い、または実際にあってよかったという自由回答が多数みられた。これらの点も考慮しながら、観戦場所などのハード面・ソフト面の整備が今後さらに行われることが期待される。

キーワード： 観戦、ダイバーシティ、東京オリンピック・パラリンピック

1. はじめに

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控え、誰もがスポーツを楽しめる環境を整えることは、近年ますます重要となっている。そうした認識のもと、水野（2017）は、スポーツの「する」「観る」「支える」という要素のうち「観る」という要素、中でもスポーツを競技場などで実際に「観る」際の情報入手という点に着目し、聴覚障害者を中心とする人々へのスポーツ観戦時の情報提供のあり方について検討した。

聴覚障害者のみならず、他の障害者、心身の機能が低下した高齢者やその同行者などがスポーツ観戦を楽しめるようにすることは、需要側である彼らの「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営む」権利*¹を保障するという観点はもちろんのこと、今後、高齢になる既存の観客をつなぎとめたり、観戦に行きたくても行けない人々の需要を掘り起こしたりするという観点からも、意義があると思われる。それによってスポーツ観戦に関心を持つ層が拡大すれば、供給側、すなわち競技場・チーム等を運営する側やそれらを抱える地域の活性化につながる可能性もある。

そこで今回は、需要側にあたる一般生活者に対するアンケート調査（図表1）の結果から、障害者・高齢者などと一緒にいったスポーツ観戦*²の実態や、観戦することに関する意識などを明らかにし、障害者・高齢者やその同行者を含むより多くの人が観戦を楽しめるようにするための課題を探る。

アンケート調査の回答者の属性は図表2の通りである。

図表1 アンケート調査の方法

<ul style="list-style-type: none"> 調査方法：インターネット調査 <ul style="list-style-type: none"> ※株式会社クロス・マーケティングに回答者の抽出および調査の実施を委託 調査対象：全国の20～69歳の男女1,600人 <ul style="list-style-type: none"> ※回答者の抽出にあたっては、性・年代および有職・無職の構成比を、総務省「平成28年 労働力調査」の構成比に近づけた 調査時期：2017年3月末

図表2 アンケート調査の回答者の属性

性・年代		職業の有無	
男性(計)	50.0 %	有職	75.0 %
20代	8.1	無職	25.0
30代	9.6		
40代	11.8		
50代	9.6		
60代	11.0		
女性(計)	50.0		
20代	7.6		
30代	9.4		
40代	11.6		
50代	9.6		
60代	11.8		

2. スポーツ観戦と一緒にいった人の特性

(1) スポーツ観戦と一緒にいった・連れて行きたい・連れて行くことをあきらめた人

まずは、スポーツ観戦と一緒にいった人、連れて行きたい人、連れて行くことをあきらめた人がいるかどうかを尋ねた上で、それらの人の中に障害者、要介護者、障害

者・要介護者以外の75歳以上の人（以下、「後期高齢者」、65～74歳の人（以下、「前期高齢者」）、未就学児、小学生、妊婦、外国人がいたかどうかを質問した。その結果を図表3に示す。ここでは主に障害者、要介護者、高齢者について述べる。

スポーツ観戦に行ったことがない人は全体の29.1%、行ったことはあるが誰かと一緒に行ったことはない（一人でのみ行った）人は6.6%であり、残りの64.4%の人は誰かと行ったことがある。その中に、障害者、要介護者、後期高齢者、前期高齢者がいる割合はそれぞれ2.6%、1.0%、2.3%、5.9%である。

また、スポーツ観戦に連れて行きたい人がいる割合は全体の54.1%である。その中に、障害者、要介護者、後期高齢者、前期高齢者がいる割合は、それぞれ3.1%、2.3%、4.4%、6.4%である。

スポーツ観戦に連れて行くことをあきらめた人がいる割合は全体の19.3%である。その中に障害者、要介護者、後期高齢者、前期高齢者がいる割合は、それぞれ8.1%、10.4%、14.0%、5.8%である。

このように、障害者や要介護者、高齢者、特に後期高齢者と観戦に行ったことや彼らを連れて行きたいと思ったことがある人は多いとはいえない。彼らが観戦に行くことが難しいために、一緒に行ったことがない、あるいは行こうとも思っていないことが、背景にはあると考えられる。

そこで以下では、サンプル数は少ないが、障害者、要介護者、高齢者と一緒に観戦に行ったことがある人の回答結果を用い、その身体状況を次の(2)で把握した上で、3～5章では一緒に行った理由や行ったことの効用、観戦時の問題点やその改善希望などについて述べる*3。

図表3 スポーツ観戦に一緒にいった人・連れて行きたい人・連れて行くことをあきらめた人の属性
〈それぞれ複数回答〉

(単位：%)

	n	障害者	要介護者	後期高齢者	前期高齢者	未就学児	小学生	妊婦	外国人	人左記以外の	誰かいる	誰もいない	が観戦したくないこと
一緒に観戦に行ったことがある人	1,030 (1,600)	2.6 (1.7)	1.0 (0.6)	2.3 (1.5)	5.9 (3.8)	4.8 (3.1)	10.0 (6.4)	0.2 (0.1)	1.7 (1.1)	78.1 (50.3)	100.0 (64.4)		(29.1)
観戦に連れて行きたいと思っている人	866 (1,600)	3.1 (1.7)	2.3 (1.3)	4.4 (2.4)	6.4 (3.4)	8.9 (4.8)	9.7 (5.3)	0.2 (0.1)	2.0 (1.1)	71.9 (38.9)	100.0 (54.1)	(45.9)	
観戦に連れて行くことをあきらめた人	308 (1,600)	8.1 (1.6)	10.4 (2.0)	14.0 (2.7)	5.8 (1.1)	8.1 (1.6)	5.2 (1.0)	1.9 (0.4)	1.6 (0.3)	65.3 (12.6)	100.0 (19.3)	(80.8)	

注1：下段の（）内は全回答者に占める割合

注2：調査票において、障害者、要介護者、後期高齢者、前期高齢者は、それぞれ「障害のある方」「介護を必要とする方」「75歳以上の方」「65～74歳の方」と表記した。また、障害者・要介護者以外の方は「『障害のある方』『介護を必要とする方』にあてはまる方を除く」とした。

(2) スポーツ観戦と一緒にいった人の身体状況

まずは、スポーツ観戦と一緒にいった障害者・要介護者、高齢者の身体的な状況を尋ねた結果を図表4に示す。障害者・要介護者は「外出する際に手助けや見守りが必要である」の割合が43.8%で最も高く、次に「長時間立っていることが難しい・できない」(34.4%)があがっている。

一方、高齢者は、最も割合が高い「長時間歩くことが難しい・できない」でも16.7%であり、身体機能は比較的高い。ただし、サンプル数は極めて少ないが、後期高齢者(n=22)は、「長時間歩くことが難しい・できない」「長時間立っていることが難しい・できない」の割合がそれぞれ40.9%、27.3%であるなど、前期高齢者(n=50)に比べると身体機能が低く、障害者・要介護者に近い傾向がみられる(図表省略)。

図表4 一緒にスポーツ観戦にいった障害者・要介護者・高齢者の身体状況<複数回答>

(単位：%)

	n	外出する際に手助けや見守りが必要である	長時間立っていることが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間立っていることが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい	長時間歩くことが難しい
障害者・要介護者	32	43.8	34.4	31.3	28.1	25.0	25.0	15.6	12.5	12.5	6.3	6.3	6.3	3.1	3.1	3.1	6.3			
高齢者	72	5.6	12.5	0.0	16.7	4.2	2.8	4.2	13.9	2.8	6.9	4.2	1.4	0.0	0.0	0.0	70.8			

注：サンプル数の都合上、障害者と要介護者、前期高齢者と後期高齢者を合わせて、それぞれ「障害者・要介護者」「高齢者」とした(以下も同じ)

3. 障害者・高齢者等とスポーツ観戦にいった理由

障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦にいった理由を尋ねた。図表5の通り、障害者・要介護者と観戦にいった人では、その障害者・要介護者を「観戦に連れて行

図表5 障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦にいった理由<複数回答>(上位3位を掲載)

(単位：%)

	障害者・要介護者と観戦にいった人(n=32)	高齢者と観戦にいった人(n=72)		
1位	自分がその方を観戦に連れて行きたかったから	46.9	その方が観戦に行きたがっていたから	48.6
2位	その方が観戦に行きたがっていたから	40.6	自分がその方を観戦に連れて行きたかったから	30.6
3位	その方が観戦に興味を持っていたから	25.0	その方が観戦に興味を持っていたから	20.8
	自分が観戦に行きたかったから 自分が観戦に興味を持っていたから		その方に誘われた、または頼まれたから	

きたかったから」が46.9%で最も高い。ただし、その障害者・要介護者が「観戦に行きたがっていたから」も40.6%で4割を超えている。一方、高齢者と観戦に行った人では、その高齢者が「観戦に行きたがっていたから」が48.6%で最も高く、次にその高齢者を「観戦に連れて行きたかったから」が30.6%となっている。

障害者・要介護者や高齢者と観戦に行った主な理由は、彼ら自身が観戦に行きたかったこと、または回答者が彼らを連れて行きたかったことのどちらかにあるといえる。

4. 障害者・高齢者等にとってのスポーツ観戦の効用

スポーツ観戦によって、一緒に行った障害者・要介護者・高齢者や自分自身（回答者）にどのような効用があったか尋ねた。その結果を図表6に示す。

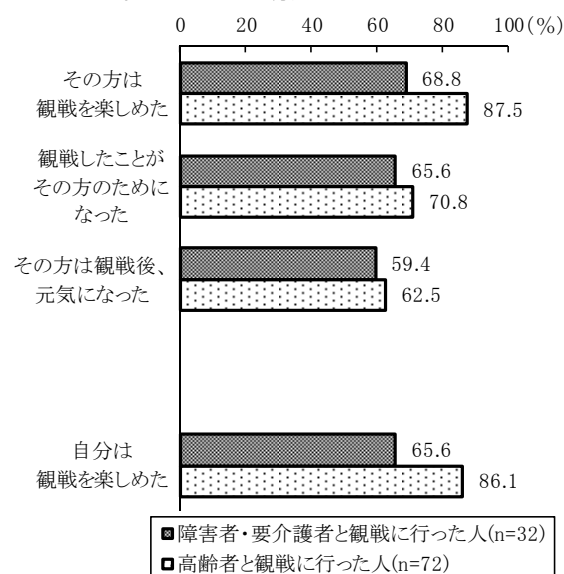
障害者・要介護者と観戦に行った場合に「その方は観戦を楽しめた」「観戦したことがその方のためになった」と答えた割合はそれぞれ68.8%、65.6%と3分の2程度を占めた。また、「その方は観戦後、元気になった」と答えた割合も59.4%と6割近い。障害者・要介護者が観戦によって何らかの効用を得たと感じた人は少なくないといえる。

ただし、それらの割合は、高齢者と観戦に行った場合に比べると低い。同様に、障害者・要介護者と観戦に行った人が「自分は観戦を楽しめた」と答えた割合（65.6%）も低くはないが、高齢者と行った人がそう答えた割合（86.1%）に比べると低い。障害者・要介護者やその同行者がスポーツ観戦を楽しんだり、観戦によって何かを得たりすることは、それ以外の人より難しい面があると考えられる。

次に、それぞれの人とスポーツ観戦に行き良かったことを自由回答形式で尋ねた結果を図表7に示す。これを見ると、ふだんの外出機会が少ないために、観戦に行きたことが楽しかったり観戦後に元気になったりする人もいることがうかがえる。これらの回答は、あくまでも同行者の主観的評価に過ぎないが、スポーツ観戦が障害者・高齢者等の心身の健康に良い影響を与えることも示唆している。

その他、家族との交流や思い出づくり、親孝行ができた、など家族関係の面での効用もあげられている。

図表6 障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦に行ったことの効用



注：「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えた人の割合

図表7 障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦に行っていた良かったこと

<p>●喜ばせる・楽しませることができた</p> <p>*外出することが少ないので、本人がとても喜んでくれた【障害者】</p> <p>*当人は非常に喜んで、楽しくすごせた【障害者】</p> <p>*母親は楽しめて、すぐ帰るつもりが最後まで見てしまった。1回も座らないのに、元気いっぱい嬉しそうだった。【後期高齢者】</p>
<p>●気分転換・刺激の機会になった</p> <p>*気分転換ができ、出かけられた達成感を感じた【前期高齢者】</p> <p>*生で見るのが刺激になっていた【要介護者】</p>
<p>●家族等の交流ができた</p> <p>*孫との交流【前期高齢者】</p> <p>*思い出になった【後期高齢者】</p> <p>*親孝行できた【前期高齢者】</p> <p>*楽しい時間を共有できた【前期高齢者】</p>

注1：【 】内は一緒に観戦に行った人の属性

注2：原則として原文のまま掲載。ただし、文意を損なわない程度に修正・補足などをおこなった箇所がある。

5. 障害者・高齢者等とのスポーツ観戦に関する問題とその改善希望

(1) 障害者・高齢者等とのスポーツ観戦時に感じた問題

障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦に行った人が、図表8にあげる問題をそれぞれの程度感じたか尋ねた。

障害者・要介護者と観戦に行った人は、「観戦場所までの移動が難しかった」と「観戦場所での移動が難しかった」と答えた割合がそれぞれ65.6%であり最も高い。つまり、観戦場所内外での移動の問題が特に大きい。次いで「観戦場所のトイレが使にくかった」が56.3%、「災害や事故の時に安全を確保しにくいと感じた」「観戦場所の

図表8 障害者・要介護者・高齢者とスポーツ観戦に行った人が感じた問題

(単位：%)

	n	まその での 移の方 動に が難 し か つ た 場 所	でその の移 動に が難 し か つ た 場 所	のその トの方 イレ がと 使 い て に く い な い 場 所	た安 全 を 確 保 し る に く い な い 場 所	か災 害 や 事 故 の 時 に 安 全 を 確 保 し る に く い な い 場 所	かその つ案 の 内 方 に と つ た 場 所	かベ の つ た 場 所	かその つア の ナ ウ に と つ た 場 所	理そ 解の 方 が 試 合 の 状 況 を 十 分 に 理 解 し て い な い 場 所	他 の 観 客 の 目 が 気 に な つ た 場 所	よ の 観 客 に 感 じ た 場 所	他 の 観 客 に 迷 惑 が か か つ た 場 所	対 そ の 方 に 対 し て の タ ク ツ の 場 所	体 調 や 機 嫌 が 悪 く な つ た 場 所	観 戦 中 や 観 戦 後 に そ の 方 の 場 所
障害者・要介護者	32	65.6	65.6	56.3	46.9	43.8	40.6	31.3	31.3	28.1	25.0	25.0	18.8	18.8	18.8	18.8
高齢者	72	11.1	18.1	8.3	9.7	8.3	11.1	5.6	4.2	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8	2.8

注1：「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えた人の割合

注2：調査票では「『観戦場所』とは、競技場、体育館、プール、浴道など、スポーツがおこなわれる場所を指します」と記載した

案内表示がわかりにくかった」「観戦スペースや座席が適切でなかった」がそれぞれ4割台となっている。

一方、高齢者で行った人はさほど問題を感じていない。ただし、後期高齢者で行った人は、前期高齢者で行った人に比べるとどの項目の割合も高い（図表省略）。障害者・要介護者や後期高齢者の身体機能の低さが、スポーツ観戦に問題が生じる一因にあると思われる。

次に、観戦時に不便・不満・不安を感じたことについて、自由回答形式で具体的に尋ねた結果を、図表9の左1列に示す。

前述の図表8で困難があると答えた人が多かった観戦場所までの移動に関しては、交通機関の利用が不便、駐車場から会場までが遠いなどの回答があった。また、観戦場所での移動を妨げるものとしては、階段の多さや人ごみなどがあげられた。観戦場所の設備については、トイレが不便、観戦席が狭い、音声アナウンスが聞こえにくい、といった意見があった。

その他、車いすを使用していることなどが理由で、観客の目が気になったと答えた人も複数いた。

(2) スポーツ観戦を楽しむために、あって良かった・あると良い設備・サービス・情報

全員に対し、障害者・要介護者・高齢者やその同行者などがスポーツ観戦を楽しむようにするための設備・サービス・情報として、実際にあって良かったもの、あると良いと思うものを自由回答形式で尋ねた。その結果を図表9の右2列に示す。

観戦場所までの移動に関して、あると良いものとしては送迎バスや駐車場などがあったが、良かったものについてはあまり回答がなかった。

観戦場所での移動に関しては、ハード面ではエスカレーター、エレベーター、手すり、スロープなどの上下移動のための設備などがあって良かった・あると良いという回答が多数あった。また、実際あって良かったという事例はないが、人ごみを避けるために高齢者等の専用通路・出入口があると良いという意見はかなりあった。ソフト面では、スタッフによる手助けや案内表示などが、移動をスムーズにするためにあると良い・あって良かったという回答もあった。

案内表示以外の情報提供に関しては、電光掲示板などもあがった。なお、電光掲示板での情報提供に関しては、聴覚障害者本人からも希望が出ている（水野 2017）。

トイレや観戦席に関しては、障害者・高齢者などのための専用・優先のものがあって良かった・あると良いという意見があった。それ以外に、トイレに関しては数、観戦席に関しては広さや座りやすさを求める声もある。

また、「設備・サービス・情報」ではないが、周りの観客が親切・協力的だったことも、良かったこととしてあげられている。

図表9 障害者・要介護者・高齢者とのスポーツ観戦に関して不便・不満・不安を感じたこと、あって良かった・あると良い設備・サービス・情報(自由回答より抜粋)

不便・不満・不安を感じたこと		あって良かった・あると良い設備・サービス・情報		
		あって良かった	あると良い	
観戦場所までの移動が困難	*交通機関の乗り換えが不便【障害者】 *駐車場から会場が遠い【前期高齢者】 *観戦場所まで歩く距離があるので体調面で不安【後期高齢者】	観戦場所までの移動手段	*直行のバスなどの優先利用 *無料の送迎 *駐車場 *出入口に近い駐車場	
	観戦場所での移動が困難 階段が多い 混雑している	*階段があるので観たいところまで行けない【障害者】 *座席まで行くのにエレベーター等がなく大変だった【後期高齢者】 *階段の一段が高すぎる【後期高齢者】 *試合終了後の退場時にひどく混雑して、歩くのが遅い母がしんどそうだった【後期高齢者】 *人がたくさんいるところに連れて行くと動けなくなってしまう【障害者】 *大きい野球場なので迷子にならないかと不安に感じた【前期高齢者】	上下移動の設備 スタッフの手助け	*エレベーター【障害者等】 *エレベーター【後期高齢者等】 *エスカレーター *エスカレーター *手すり【前期・後期高齢者等】 *手すり【前期・後期高齢者等】 *スロープ【障害者等】 *スロープ *移動補助【障害者】 *移動サポート【障害者】 *スタッフの対応【後期高齢者】 *トイレへの付き添い【障害者】 *座席までの移動介助 *車いすの人を気遣ってくれた【前期高齢者】 *トイレまで付き添ってくれた *専門知識を有した係員 *介護の資格があるスタッフ
わからぬ		アナウンスが	通路・入口の工夫	*通しやすい広い通路 *混雑を避けられる迂回通路／専用通路／近道ルート *高齢者専用出入口／ゲート
			情報の提供	*案内看板 *案内パンフ *電光掲示板【障害者】 *わかりやすい案内表示【障害者】 *きめ細やかな場内アナウンス【前期高齢者】 *両親は耳が聞こえないので(中略)電光掲示板がよく見える席を優先的に確保してもらえるとより良い【障害者】
トイレが不便		*トイレが不便【障害者・後期高齢者】 *トイレまでが遠かった【後期高齢者】 *トイレが混雑【前期高齢者】	整備されたトイレ	*障害者用トイレ【障害者】 *多目的／優先／専用トイレ *トイレが近くてきれいだった【前期高齢者】 *トイレの空きがわかる電光表示 *トイレがたくさんある *広いトイレ *洋式トイレ
観戦席が不便	*シートが狭くトイレなどに行きにくい【前期高齢者】	観戦席の工夫	*障害のある方でもゆつくり見られるスペース *高齢者が長時間でも座れる席【障害者】 *障害者の観戦ゾーン *もう少しゆったり座れるシート *車いす用の座席 *座布団などの貸し出し	
観客の目が気になる	*車いすだったので、他の方の迷惑になった感じがした【障害者】 *周りの人が気を遣ったり、何度も見たりするので嫌でした【障害者】 *帰りに一斉に移動する際に、車いすが邪魔になる。周囲の目。【障害者】	観客の心遣い	*思ったより親切な人も多く、本人はあまり嫌な思いをしないで帰れた【障害者】 *周りの人の協力があった【障害者】 *周りの方々が優しくかった【後期高齢者】	

注1：【 】内は一緒に観戦に行った人の属性。ただし、あって良かった・あると良い設備・サービス・情報については、障害者・要介護者・高齢者と観戦に行かなかった人も回答しているため、【 】の表記がない回答もある。
注2：原則として原文のまま掲載。ただし、文意を損なわない程度に修正・補足などをおこなった箇所がある。

6. おわりに

障害者・要介護者やその他の高齢者（以下、障害者・高齢者等）とスポーツ観戦に行った人の多くは、単に楽しめたというだけでなく、観戦後に彼らが元気になったなどの影響も感じている。障害者・高齢者等がスポーツ観戦に行ける環境を整えることは、冒頭で述べた需要拡大の効果に加え、障害者・高齢者等本人の心身にプラスの効果をもたらすことも期待できる。

しかし現状では、障害者・高齢者等とスポーツ観戦に行ったことがある人はさほどいない。彼らが観戦に行くことには大きなハードルがあるためと考えられる。

実際、彼らと観戦に行った人は、競技場などの観戦場所までの移動やその中での移動、例えば階段の昇り降り、トイレや観戦席の利用など、さまざま面で不便や不満、不安を感じている。これらの困難があることを、観戦前からある程度想定していた人も少なくないだろうが、それでも行ったということは、困難が想定以上だったのか、あるいは困難があるとわかっても行きたい気持ちが強かったのではないかと思われる。

こうした困難を解消するために、ハード面では観戦場所までの移動手段や駐車場、観戦場所でのエレベーター、手すり、スロープなどの設備、障害者・高齢者等の優先・専用のトイレ・座席・通路などがあると良いとの回答があった。また、ソフト面では、案内表示・音声アナウンスのわかりやすさやスタッフの手助けを求める声もある。これらの設備やサービスの中には、実際にあって良かったという回答もあることから、全く非現実的な要望ばかりではないといえる。もちろんすぐにすべてを実現することは難しいだろうが、既存の施設・設備を少しずつでも改善したり、情報提供方法の工夫やスタッフのホスピタリティでカバーしたりすることは不可能ではないだろう。

現在70歳前後の団塊世代（戦後のベビーブームに生まれた世代）がさらに高齢になる今後は、身体機能が低下してスポーツ観戦に行きにくくなる人が増えると予想される。そういう人でも観戦に行けると思えるよう、観戦環境のハード・ソフト両面での整備が進むことが期待される。

なお、障害者や要介護者と一緒に観戦に行った人の中には、周囲の観客の目が気になった、迷惑をかけたように感じた、と答えた人も少なからずいた。一方で、周囲の観客が親切で良かったとの回答もある。スポーツ観戦に限らず、障害者・高齢者等が外出する際に、本人やその同行者がこのような気持ちを感じることはしばしばある*4。安全でスムーズに外出できる環境を社会の側が整えるとともに、障害者・高齢者を含む多様な人が多様な場にいることを受容する文化を醸成することも必要なのではないか。

（研究開発室 みずの えいこ）

【注釈】

- *1 2011年施行の「スポーツ基本法」の前文には、「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことは、全ての人々の権利」と記載されている。
- *2 アンケート調査ではテレビやインターネットでのスポーツ観戦についても尋ねたが、本稿では競技場・体育館・沿道などでのスポーツ観戦についての結果のみ掲載する。このため、「スポーツ観戦」と表記した場合には後者を指す。
- *3 一緒にスポーツ観戦に行ったことがある人が複数いる場合は、①障害者、②要介護者、③後期高齢者、④前期高齢者のうち、最も番号が小さいカテゴリーの人について回答するよう調査票を設計した。
- *4 例えば、要介護者との旅行に関する調査（水野 2012）で、要介護者との旅行経験がある人の29.8%は「他の旅行者・観光客に迷惑がかかる」ことに対する不安を旅行前に感じ、18.4%は旅行時にそれが当てはまると答えている。また、要介護者との旅行経験がない人がもし旅行するとした場合に「他の旅行者・観光客に迷惑がかかる」ことに不安を感じる割合は64.7%にのぼっている。

【参考文献】

- ・水野映子, 2017, 「誰もがスポーツ観戦を楽しむための情報提供のあり方—観戦時の情報入手が困難な聴覚障害者等の視点から—」『Life Design Report』(Spring 2017. 4).
- ・水野映子, 2012, 「要介護者の旅行を阻害する要因—介護者を対象とする意識調査から—」『Life Design Report』(Summer 2012. 7).